

平成29年度小田原地域の関係機関が行う小児在宅に係る取組内容（案）

資料3

番号	課題区分	項目	内容	提案機関 主たる機関（案）	協力を得たい関係機関（例） ※（ ）で記載したものは会議委員所属団体以外の所 属	スケジュールイメージ				備考
						第1 四半期 （4月～6月）	第2 四半期 （7月～9月）	第3 四半期 （10月～12月）	第4 四半期 （1月～3月）	

(1)関係機関とのネットワーク構築

1	ネットワー ク	行政、関係機関を含めたネットワーク会議 や支援提供体制の具体的構築に向けた協議 の開催	・行政、関係機関を含めたネットワーク会議を定期的に開催して、在宅児の実態、問題点を共有する ・情報共有が図りやすいように年に数回ネットワーク会議を開催する ・母子保健福祉委員会において、保健・医療・福祉関係機関との支援体制づくりのための検討の場をつくる。また、必要に応じて部会にてケース検討会を行い、地域の支援提供体制の構築に向けた具体的な取組みを展開する ・保健・医療・教育・行政・福祉のネットワーク構築及び支援体制づくりの検討会儀（部会）の開催 ・医療と福祉が密に情報共有でき連携をとれる各専門機関のコアメンバーによる体制をつくる。各機関からの情報の集約や発信の拠点とする ・スムーズに対応できるように関係機関と顔の見える体制づくりとしてネットワーク会議を開催する	・小田原医師会 ・小田原市健康づくり課 ・小田原保健福祉事務所 ・太陽の門 ・リハビリテーション事業団	県、市町など行政、小田原保健福祉事務所、太陽の門、市立病院、各障害福祉の関係者等（小田原地域の保健・医療・福祉関係機関等）		会議開催 （9月頃） <div><検討事項> ・進捗状況の共有</div>		会議開催 （1月頃） <div><検討事項> ・進捗状況の共有 ・H30年度の取組内容</div>	
2	ネットワー ク	主治医病院との学校の連絡会の実施	学校に通う児童生徒の主治医のいる病院を中心とする、医療関係機関の連絡会を1年に1度はもつ。	小田原養護学校	市立病院、小田原保健福祉事務所、小田原児童相談所、アコモケア訪問看護ステーション等	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
3	ネットワー ク	役割分担の整理表の作成	・ネットワーク図、フローチャート等行政部署間を含めた関係機関の役割分担の整理表を作成し、各機関の役割を明確化する ・行政の部署間を含めた関係機関の役割について確認する ・行政の部署間、母子保健担当と障害福祉担当の話し合いを含めた関係機関の役割分担の整理表を作成する ・行政の部署間を含めた関係機関の役割分担の整理表を作成し、各関係機関の役割を理解する	・小田原市立病院 ・小田原市健康づくり課 ・湯河原町保健センター ・真鶴町健康福祉課	小田原保健福祉事務所、関係機関	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
4	ネットワー ク	事例検討や事例集を持ち寄る検討会の実施	・既存のケースについて症例報告やカンファレンスに参加する	こども医療センター		<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	

(2)自治体の支援体制の構築

5	自治体支援 体制	受入体制整備に係る基準ルールづくり	・病院から在宅に戻る際の関係者側の受入れ体制はどうあるべきか、県庁主催の勉強会を行い、関係機関の意識統一をする。受入の環境整備に関する到達基準を明らかにする	湯河原町保健センター	（自治体関係機関等）	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
6	自治体支援 体制	庁内連携の強化、研修会への参加	・庁内の担当課の横の連携を強固にする ・自治体内部で母子保健担当と障害福祉担当が連携し、町における療育の課題と方向性について話し合う ・障害福祉担当と福祉資源等の情報を共有する ・在宅医療を必要とするケースに今後対応できるよう担当者が研修会に参加する	・箱根町子育て支援課及び健康福祉課 ・湯河原町保健センター ・真鶴町健康福祉課	（近隣自治体、医療機関、障害福祉サービス等関係機関）、小田原保健福祉事務所	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	

(3)療育、短期入所、放課後デイなどの資源不足

7	療育	利用可能な療育の場の調査	・利用できる療育の場の調査をする	ほうあんふじ	小田原市障がい福祉課、小田原市立病院	<div>調査内容検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
8	療育	既存事業のアウトリーチ	・県の支援として、巡回リハビリや小田原保健福祉事務所で実施している発達相談の訪問事業化 ・巡回リハビリテーション等により障害児の療育にかかる関係機関に対し、専門的見地からの技術支援を継続していく	・湯河原町保健センター ・総合療育相談センター	（近隣自治体、医療機関、障害福祉サービス関係機関）、小田原保健福祉事務所 小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町等	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
9	療育	個別ケース検討会の実施	・ケース検討会を通して市町保健師への支援を行う。また、同行訪問等の個別ケース支援を強化し、保健師により療育を含めた育児支援のサポートを行う。 ・小田原保健福祉事務所から町へ業務移管される前の在宅医療を必要とするケースについて振り返る機会をつくる。支援経過や方法について、小田原保健福祉事務所と情報交換し、振り返ったケースの状況、支援に関する情報を所属内で共有する	・小田原保健福祉事務所 ・真鶴町健康福祉課	（小田原地域の保健・医療・福祉関係機関等） 小田原保健福祉事務所、関係機関等	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
10	療育	支援提供体制の具体的構築に向けた協議の場の設置	・自立支援協議会等の場で医療機器を装着した子どもを受け入れてくれる短期入所や放課後等デイサービス、就学前の療育の実施体制に向けて検討する	小田原市障がい福祉課	（小田原地域の保健・医療・福祉関係機関等） 太陽の門、市立病院、各障害福祉の関係者等	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
11	療育	親の療育意識の向上	・医療から保育（療育）の必要性を伝えてもらう ・乳幼児期の療育の必要性を認識して親子を交えて意識を高める活動を行う	ほうあんふじ 小田原市肢体不自由児者父母の会	小田原市障がい福祉課、小田原市立病院、小田原市、関係機関等	<div>方法検討</div> <div>順次実施</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	
12	療育	情報共有ツールの作成	・県西医療福祉資源マップの作成（『まいらいふぶっく』の県西福祉マップに医療機関情報を加える） ・小児在宅療養ガイドブック（『在宅でケアが必要なお子さんの保健・福祉ガイドブック』や『おひさま』のイメージ）の作成 ・重症心身障害児の短期入所の一覧を各市町村で把握（例：障害児者協議会加盟入所施設短期入所の利用一覧等）医療的ケアのみのレスパイト機関について情報収集（『まいらいふぶっく』を利用）	・太陽の門 ・小田原児童相談所	（保健・医療・行政・福祉の関係機関）	<div>方法検討</div> <div>進捗報告</div>			進捗報告	

平成29年度小田原地域の関係機関が行う小児在宅に係る取組内容（案）

番号	課題区分	項目	内容	提案機関 主たる機関（案）	協力を得たい関係機関（例） ※（）で記載したものは会議委員所属団体以外の所属	スケジュールイメージ				備考
						第1四半期 （4月～6月）	第2四半期 （7月～9月）	第3四半期 （10月～12月）	第4四半期 （1月～3月）	
13	療育	療育体制充実にかかる要望	県西地域の療育体制の充実を図り、神奈川県行政への継続的な支援要請を行う	小田原医師会	県、市町など行政、（県議会・市議会）	方法検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	

(4)コーディネーターがいない

14	コーディネート	計画相談支援事業所との協議の場や勉強会の設定	・町の中に、高齢者で言うところの包括支援センターのような相談窓口がない。サービス利用につながるまでの交通整理を責任を持って行える担当者が不在。 ・計画相談員の役割が整備されておらず、1人の相談員の受け持ち人数も多い。また担当する業務内容が個々の力量や感性、事業所の方針に依るところが大きい。小児在宅を受け入れる地域を作るためには行政・事業所が求められている支援は何かについて共通理解をもつことが必要。勉強会を行い、各関係機関の意識統一をする。	湯河原町保健センター	（小児を得意とする計画相談支援事業所、自治体関係者等）	方法検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
15	コーディネート	相談事業所と医療機関間連絡会の実施	・相談事業所、医療機関との連携強化。ケース会議・近況報告などで集まる機会を定期的に作る	ほうあんふじ	（相談事業所、医療機関のケースワーカー）、市町保健センターの保健師	方法検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
16	コーディネート	地域限定相談窓口の設置	・小田原地域地域在住の医療ケア児（重心児）を対象とした相談窓口の設置（コーディネーター配置） ・市町の委託先事業所である、おだわら障がい者総合相談支援センター『クローバー』が一次的な窓口として集約する	太陽の門 小田原児童相談所	（保健・医療・福祉・行政の関係機関） （おだわら障がい者総合相談支援センター（クローバー）、市立病院、訪問看護ステーション、関係機関）	方法検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
17	コーディネート	相談支援専門員向け研修	相談支援専門員スキルアップ研修（医療ケア児支援）の開講およびフォローアップ	太陽の門	（保健・医療・福祉・行政の関係機関、各コマの専門職・専門機関）	方法検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	

(5)福祉現場での医療従事者や医療的ケア対応可能な人材不足

18	人材不足	専門医の確保	・地域の療育の核となる、小児神経専門医を県西地域に確保する	小田原医師会	県、市町など行政、ほうあんふじ	方法検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
19	人材不足	講習会の実施（医療従事者、介護職、指導看護師向け）	・小児在宅医療に関する研修の開催	小田原市立病院	－	講習会企画				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
20	人材不足	講習会の実施（看護師・看護学生向け等）	・看護師を中心とする従事者への講習会をこども医療センターなどの協力を得て、定期的に小田原地域で開催する。看護学校の実習先として、小児在宅医療の現場を利用する ・訪問看護ステーション連絡協議会や看護学生の集まりの場や実習の場を活用し、障害児看護の魅力を伝える ・看護学生の実習の受入を行い、特別支援学校の実際を知る機会を作り、福祉や教育の場で働くことの楽しさや必要とされている実態を伝える	・小田原医師会 ・小田原市立病院、太陽の門、アコモケア訪問看護ステーション、小田原市障がい福祉課、こども医療センター ・小田原養護学校	太陽の門、訪問看護ステーション（医師会、アコモケア、アイリス、コスモス）、看護学校、ほうあんふじ	講習会企画				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
21	人材不足	事例検討や事例集を持ち寄る検討会の実施	・医療に精通した訪問看護ステーションと相談支援機関が中心になることが現実的だが、実務的なサポートは各ケースでフレキシブルに行わざるを得ない。事例検討や事例集などを持ち寄る研修会を企画する ・既存のケースについて症例報告やカンファレンスに参加する	リハビリテーション事業団 こども医療センター	小田原保健福祉事務所、関係機関	研修企画				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	

(6)医療的ケアを必要とする在宅児の実態が不明

22	実態把握	レセプトを活用したケース把握	・手帳を取得した児のそれぞれの健康保険組合からくるレセプトから把握していく ・病院から在宅への連絡があればより正確に把握することができる	箱根町子育て支援課及び健康福祉課	医療機関、小田原保健福祉事務所 等	調査内容検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	
23	実態把握	小児医療ケアの状況把握調査	こども医療センターの実数調査に加え、具体的な医療ケアの状況把握の調査を行う	太陽の門	（小田原地域在住の要医療ケア児を支援している関係機関）	調査内容検討				
							順次実施			
						進捗報告			進捗報告	